

2026.2.9
第2498号

【エンゲージメントを高める！】

新入社員を歓迎・激励する スピーチの文例

株式会社スピーキングエッセイ
大嶋 友秀

Point

- 新入社員にとって、社長や役員、上司からのスピーチは、彼らの緊張を和らげるとともに、エンゲージメントを高めるための重要なメッセージとなります。
- ここでは、スピーチの際に押さえるべきポイントを「冒頭部分（イントロダクション）」「内容部分（歓迎・激励）」「最後の部分（エンディング）」の3つに分けて、ポイントを解説します。
- そして最後に、そのまま使える新入社員を歓迎・激励するスピーチの文例を紹介します。

4月は、多くの企業が新入社員を迎える季節ですが、入社式やオリエンテーションの場で行われる歓迎スピーチは、単なる形式的な挨拶ではありません。

新入社員にとっては、「この会社で働く意味」や「ここに自分の居場所があるのか」を感じ取る、最初の重要なメッセージとなります。

近年、企業は人材の採用だけでなく、定着やエンゲージメントの向上という課題に直面しています。AIの進展や社会環境の変化が加速するなかで、新入社員が感じる不安や迷いは、これまで以上に大きくなっています。

だからこそ、新入社員に対して最初に届ける言葉には、成果や期待以上に「安心感」と「共に成長する姿勢」を含めることが重要です。

本稿では、新入社員を迎えるスピーチを次の3つに分けて、それぞれのポイントと文例を紹介します。

- 冒頭部分（イントロダクション）
- 内容部分（歓迎・激励）
- 最後の部分（エンディング）

そして、最後に参考となるサンプルスピーチを紹介します。

1. 冒頭部分（イントロダクション）

冒頭では、評価や役割を語る前に、まず新入社員を心から歓迎する姿勢を明確に伝えます。

人は安心して初めて、周囲の言葉に耳を傾けることができます。最初の数十秒で「ここにいてよい」という感覚を持つもらうことが、その後のエンゲージメントを大きく左右します。

【文例】

「皆さん、本日はご入社おめでとうございます。今日、こうして皆さんを新しい仲間として迎えられることを、私たちは心から嬉しく思っています。数ある選択肢の中から、当社を選んでくださったことに、心より感謝します。」

2. 内容部分(歓迎・激励)

(1) 歓迎のポイント

歓迎の言葉では、新入社員の能力や将来性を評価する前に、「存在そのものを歓迎している」ことを伝えます。

また、組織が大切にしている価値観や文化に触れ、新入社員がそれらを共有する一員となったことを実感できるようにしましょう。

【文例】

「私たちは、一人ひとりの違いや多様な視点を大切にする組織です。皆さんにこれまでに培つてきた経験や感性は、私たちに新しい気づきをもたらしてくれるはずです。」

(2) 激励のポイント

激励では、「完璧であることよりも「学び続ける姿勢」を重視するメッセージを伝えます。

これから社会では、正解のない課題に向き合う力がより強く求められます。そのなかで、失敗や試行錯誤は成長の一部であることを明確にしましょう。

【文例】

「最初からうまくいく必要はありません。失敗することもあるでしょう。しかし、その一つひとつが皆さんの力になります。完璧であることよりも学ぶ姿勢が大切です。私たちは皆さんの挑戦を支え、共に学び続ける存在でありたいと考えています。」

3. 最後の部分(エンディング)

エンディングでは、これまで伝えてきた内容を簡潔にまとめ、新入社員が前向きな気持ちで一步を踏み出せるように背中を押します。

「共に未来をつくる仲間である」という視点でスピーチを締めくくることができれば効果的でしょう。

【文例】

「皆さん一人ひとりの成長が、私たちの組織の未来を形づけます。わからないことがあれば、ぜひ周囲を頼ってください。今日から共に歩んでいきましょう。」

【歓迎・激励のサンプルスピーチ】

皆さん、ご入社おめでとうございます。今日という日は、皆さんにとっても、私たちにとっても、新しい物語が始まる日です。

からの時代は、正解を早く出す力よりも、問い合わせを持続して、人と対話しながら答えを探す力が求められます。わからないことに出会ったときは、ぜひ立ち止まり、考え、周囲と話してみてください。

さんは、まだ知らないことが多いかもしれません。しかしそれは弱みではなく、可能性です。皆さんの視点や疑問は、組織を成長させる大切な力になります。失敗を恐れず、一步を踏み出してください。ここには、その挑戦を支える仲間がいます。

これから皆さんと共に働くことを、心から楽しみにしています。